

CES 活動ニュース

1. 歩いて知ろう！千代田の環境物語り～「ウォーキング・プラス・環境物語りシリーズ」

区内を歩きながら、千代田の身近な自然環境や課題を知ることのできる「ウォーキング・プラス」。

この企画は、CESの活動が本格化した平成21年度から実施しており、参加者から好評を頂いている人気イベントです。

今回は、新たに「環境物語りシリーズ」と題し、全3回のシリーズでお届けします。それぞれ「ごみ」「野鳥」そして「桜」、3つの「環境物語り」として触れ、各回ごとに違った角度から千代田の環境問題をクローズアップします。是非この機会に、これらの物語りを通じて千代田の環境を学んでみませんか。

まず、第1弾は10月19日(土)10時より行われる「ごみの物語り」です。神田から秋葉原にかけてのごみを拾い、そこから環境について考えます。

コースは、神田界隈の出世不動や稲荷神社をはじめ、最近話題の「ワテラス（水と緑をテーマにした再開発プロジェクトによる複合施設）」や「マーチエキュート神田万世橋（旧万世橋駅の跡地をリノベーションした商業施設）」等を巡る予定です。ごみ拾い終了後、皆さん持参のお弁当でランチタイムの時間も設けます。

申込方法など、詳細はCES推進協議会ホームページ(下記URL)をご覧ください。

皆様ふるってのご参加をお待ちしています！

◆ウォーキング・プラス・環境物語りシリーズ 募集要項

<http://chiyoda-ces.jp/class1/walking/#/entry>



昨年度のウォーキングプラスより



2. CES環境講座（第1回・第2回）を開講

去る8月31日(土)、千代田区役所にて、CES環境講座の開講式と第1回プログラムを実施し、9名の受講者が参加しました。

開講式では当協議会の森会長から開講のあいさつ、続いて千代田区長石川様から激励のことばを戴いたのち、講師による講義にうつりました。

講義は、まず千代田区環境・温暖化対策課から「環境モデル都市千代田について」。千代田区の特徴、環境モデル都市の使命や、低炭素社会実現のための様々な制度・取り組み事例の紹介などがありました。次に、ちよだボランティアセンターから「ボランティア活動について」。ボランティアとは？から、ボラ

ンティア参加の意義や心構え・コツなど、幅広く学びました。

最後に、受講者による自己紹介とグループワークを行いました。参加者からは「区民のみならず、区に関わる人に意識を持ってもらうCESの活動方針がとても興味深く、自分の問題として考えてみたいと改めて思いました。」「これからの講座がとても楽しみです。他の人に伝えられるように勉強していきたいと思います。」等のご意見を頂きました。

第2回は、9月18日（水）、井の頭恩賜公園・自然文化園で「神田川の源泉を訪ねる」をテーマにフィールドワークを実施し、16名が参加しました。

お天気にも恵まれ、実際に川に生息する生き物を目で見て、手で触れることを通して、より環境を意識する機会になったようです。受講者の皆さんにとっては、体験を通じて学ぶことが印象に残り、大変好評でした。グループワークでは「水の流れが私たちの生活圏及び生態系に及ぼす影響」について、講師や受講者同士で、沢山の質問や問いかけがあり、積極的な討議が行われました。



川に生息する生き物の観察



自然の中のフィールドワークを楽しみました

3. 千代田区「クラスⅢ監査」について

平成25年度の千代田区のクラスⅢ監査は全て終了し、9月26日（木）に開催された「CES認証委員会」において、総括監査員から監査結果の報告を行いました。

今回の監査は、7月から8月にかけて、千代田区の75課・施設を対象に、総括監査員はじめ14名の監査員から成る監査チームにより行ったものです。

認証委員会では、CES推進協議会監査チームから、75課・施設の「認証」を推薦しました。また、そのうち2課・施設については、優良な取組みとして「表彰」を推薦しました。ちなみに、「表彰」を推薦するのは、CES監査が始まって以来、初めてのことです。

結果的に、上記の「認証」および「表彰」推薦は認証されましたが、監査指摘事項の基準や、区のマニュアルの各部署への徹底方法などについて、活発な議論が交わされる場面もありました。これらは、例年指摘されていることでもありますので、今後の重点課題として、役員会等に適宜図ってまいります。

監査結果報告書を見ると、区の本来業務が多忙の中であっても、積極的にCES運用を利用し、改善につなげている課・施設も見られます。このような事例を他の課・施設にも情報共有し、この「CES（千代田エコシステム）」という仕組みをさらに活用していただけるよう、事務局としても推進していきたいと考えています。



4. 「クラスⅡ新システム検討委員会」活動状況報告

かねてから検討を進めてきました、クラスⅡ活動に係る「新システム」については、これまでも事務局通信を通じて、動きの一端をお知らせしてまいりました。

「新システム」を考える上で最も重視するのが、事業者(主)の「環境配慮活動」への取り組みやすさですが、それを実現するうえで、環境配慮活動として採用すべき項目や活動域など、不明確な点の多さが課題でした。



これらの実態を事前に把握するため、クラスⅡ新システム検討委員会では、学生サポーターによるクラスⅡ事業者(主)への聞き取り調査をすすめてまいりました。調査は8月一杯で完了し、現在、それらの結果を踏まえ、委員会及び作業チームで整理検討を加えているところです。

事業者(主)の皆さんが「環境配慮活動」としてどこまで対応していただけるのか、また、多種多様な業種(商店、飲食店など)の事業者(主)が活動していく中で、項目をどのように設定し「平準化」したデータとするのかなど、まだまだ課題がありますが、「新システム」として効果的に機能して行くためにも、今しばらく検討が必要ではないかと考えています。

11月中には委員会としての活動を終え、その後、「クラスⅡガイド」に反映させるための改正検討作業を完了させたいと考えております。

かんきょう

CESでは今年、クラスⅠ活動において、初の試みとして『さくら咲くプロジェクト』と銘打ったイベントを企画し、実施・運営いたしました。

これまでになかった企画で、担当する「環境リーダー」の皆さんも、大変ご苦労されました。事務局としてもどのような展開になるのか想像しがたく、只ただ戸惑うばかりだったように記憶しています。

私どものイベントに限らず、イベント企画の取り組みには「勇気と決断」がその出来栄えに大きく左右することを実感しました。

それにしてもイベントの企画には、それなりの「ノウハウ」があるようです。今後の参考になればと思い、調べてみましたので以下にご紹介します。

ポイント① イベント自体は「手段」であり、「目的」ではないと云うこと。

…とかくイベントを開催することが優先され、目的が見失われていることが多い。イベントのためのイベントになりがち。目的を見失ったイベントは、間違いなく形骸化し、マンネリ化すると指摘しています。

ポイント② 誰を対象にするか?を明確に。

…漠然と幅広い対象を狙ったイベントは焦点ボケする。どんな人に参加して欲しいかを明確にする。例えば、性別、世代、職業、地域など。

ポイント③ なぜ、そのイベントをするのか?

…ややもすると、何をやるかが議論の中心になりがち。

しかし「なぜやるか」と云う目的を煮詰めることの方が重要で、イベントでどんな課題を達成すべきかを明確にすることが、先に進めやすいと書いてありました。



実のところCESのイベント活動も、ややマンネリ化傾向にあるように思います。特に集客には工夫が必要で、これから実施するテーマの取組み等にも、これらのポイントがヒントになれば幸いです。

s k